令和4年度　学校評価報告書

学校番号（　小05　）　長崎市立（　伊良林小　）学校

1　教育目標

夢やあこがれに向かって，自ら考え，行動するたくましい子どもを育てる
～やればできる～

2　学校経営方針

すべては子どもたちの未来のために
「チーム伊良林」で，子どもたちのよさや可能性を最大限に引き出す。

3　重点目標

1　すべての子どもたちに基礎基本の定着と確かな学力の向上をめざす。　　2　いじめで悩む子ども０（ゼロ）をめざし，早期発見・早期解決に努める。
3　すべての子どもたちを運動に親しませ，体力の向上をめざす。
4　子どもたちが周りの状況に応じて危機を予測し，これを回避できる態度や能力を身に付けさせる。
5　子どもたち一人一人の教育的ニーズに対応するために，支援体制の充実を図る。
6　長崎っ子の約束「あ・は・は」運動の周知・実践をとおして，基本的生活習慣を確立する。
7　「GIGAスクール構想」に対応できる校内体制及び教育課程の構築に取り組む。
8　各教職員がＰＤＣＡサイクルを意識して主体的・効率的に職務に取り組む。
9　開かれた学校をめざすと共に，家庭や地域と一層の連携を深める。

4　自己評価

領域	項目	質問内容	アンケート結果（肯定的割合・%） 児童生徒	保護者	教職員	分析及び改善策
学校経営	教育目標	教育目標を達成している	96	95	97	昨年度に比べると，肯定的な評価が向上しているが，業務改善の項目が大変低い。職員全体で自分事として改善に向けた取組を行う必要がある。
	学校の雰囲気	明るく楽しい雰囲気である	95	96	89	
	組織運営	校務分掌は責任体制が明確で、適切に機能している			80	
	業務の改善	校務の縮減・効率化等、業務の改善を推進している			44	
心の教育	生活・生徒指導	ルールやマナーを身に付けている	91	89	69	教職員と児童・保護者の評価に差が目立つ項目があった。「ルールやマナー」については，改善してほしい点を児童，保護者に説明すること，「悩みや相談」「いじめ防止」については，生活アンケートの取組を知らせたり，保護者と連携を密にしたりすることで改善を図っていく。 特別支援教育についても，学校での取組を保護者・児童・地域に伝えていくことで改善を図りたい。
		挨拶をよくしている	90	82	76	
		「あ・は・は運動」を知っている（小学校のみ）	95	80	74	
		教職員は悩みや相談に親身に対応している	96	77	100	
	いじめ防止対策	学校はいじめ防止のための対策をとっている	96	77	100	
	人権教育	生命や人権を尊重しようとする心が育っている	98	97	100	
	平和教育	平和の大切さを感じ、その思いを発信しようとしている	92	80	87	
	特別支援教育	学校は教育的ニーズに応じた教育を行っている	97	79	100	
確かな学力	特色ある学校づくり	伝統や校風、地域の実態に即した教育を行っている	96	95	97	教職員は，日々わかりやすい授業を目指して実践している。しかし，保護者との意識に差があるため，学校だよりや学級通信を活用し，学力向上のための取組を伝え，さらに授業改善を進めて行く必要がある。
	学習指導・教育課程	わかりやすい授業を行っている	97	87	100	
		家庭学習の習慣が身に付いている	87	89	96	
	キャリア教育	将来の自立に向けて適切に指導している	92	78	84	
		長崎のまちや自分の住んでいる地域が好きである	93			

健やかな体	保健・衛生	衛生管理に努め、健康に関する教育を行っている	90	91	94	概ね高い評価を得られているが，体力の向上については，学校での取組状況が家庭に十分伝わっていないことが評価に差が見られる要因の一つであると考えられる。家庭への情報発信を進めていかなければならない。
	体力向上	早寝・早起き・朝ごはん(基本的生活習慣)が身に付いている	87	85	88	
		体力向上に努めている	91	73	95	
	食育	食に関する教育活動を行っている	89	85	86	
信頼される学校	安全管理	児童生徒の安全に気を配っている	94	90	95	授業参観や保護者を招いての行事を中止することがあった。信頼される学校づくりのためには，情報発信は不可欠である。次年度に向けて，情報発信の方法を検討していく必要がある。
	情報提供	学校の状況は通信やHP等で知ることができる	92	84	96	
	ＰＴＡ・地域との連携	学校はPTAや地域との連携がとれている	91	91	95	
	職員資質向上	研修が充実し、資質が向上している			94	
教育環境	環境整備	教育環境が充実し、整備されている	96	93	83	校舎は新しいが，教育環境・職場環境はより良く改善していかなければならない。
	職場環境	学校は働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる			76	

５ 自己評価のまとめ（成果・課題・対策等）

児童，保護者，教職員とも評価は昨年と比較しても，大きな差は見られなかった。年度当初は行事の縮小や中止等，大きく制約を受けることもあったが，後半はwithコロナの考えのもと，できる限り学習活動を行う姿勢で臨んだ。

成果としては，運動会や創立１２０周年フェスタ，授業参観等が行えたこと。それに伴い，児童や教職員の活動意欲が大きく向上した。また，タブレット端末の活用も進み，情報担当職員やICT支援員が現職教育を実施するなど，意識の高まりがみられた。

課題と改善策は，各項目に記したとおりだが，昨年度も評価が悪かった業務の改善と働き方改革を推進していくことである。教職員が情熱と使命感をもって教育に向かうことができる環境づくり（働きがいのある環境づくり）を行う。それによって，日々の教育実践の充実を図る。

６ 学校関係者評価

今年度は，１回ではあるが，学校評議員さんを招いての学校評議員会を実施することができた。話し合いを進める中で，次のような意見が聞かれた。

○「子どもはルールやマナーを身に付けている」の項目で評価に違いがあるのは，家では良い子の児童がいるのではないか。学校生活上での問題点等を知らせ，学校と家庭が連携してマナーアップを図っていくとよいのでは。

○学校アンケートで「子どもはよく本を読んでいる」の項目の保護者評価が低かったが，家庭で大人が本を読む姿が見られないのではないか。PTAでも保護者に向け，親子読書の推進等を発信してもよいのでは。

○親がスマホばかり触って，子どもと話さない，向き合わないと聞く。３歳までは「言葉のシャワーを」と言われているので，家庭で子どもと向き合う時間をつくってほしい。

７ 対策等の見直し（学校関係者評価を受けて）

○今年度は，コロナ禍の中でも，育成協主催のウォークラリー大会やおやじの会主催の鬼火焚き＆餅つき大会などの取組を行うことができた１年だった。PTA関係で考えると，学年レクレーションが中止となった学年もあり，完全復活とまではいかない状況である。このままでは，子どもと地域のつながりが薄れてしまう懸念もあるが，地域を取り込んだ学習活動動として，２年生生活科での商店街訪問や３年生社会科での商業施設訪問など実施することができた。次年度は，もっと積極的に地域との連携を進めていきたい。また，守るネットホルダーを活用し，地域一体となって子育てを進めていきたい。

○マナーの向上や読書活動の推進，メディアの使い方のルールづくりなど，積極的に家庭や地域に現状を伝え，必要性について発信していきたい。

※「4 自己評価」の「項目」欄には、領域毎に空欄を設定している。ここには、重点目標に即し、学校独自の「評価項目」並びに「質問内容」を追加することができる。
＜参考例＞ 読書活動、豊かな体験活動、部活動 等

※「4 自己評価」のアンケートは、4段階で回答するようになっているが、そのうち上位2段階を肯定的回答ととらえ、その割合（整数値のみ）を集計する。